

第47回 岐阜大学フォーラム

『言葉のあとさき』

と き：6月1日（水）16:00～17:15

ところ：岐阜大学講堂



© Kiyoshi.MORI

早稲田大学文学学術院 教授

堀江 敏幸 氏

私たちが使っている言葉は、これまで受け継がれてきた言葉の蓄積から成り立っています。その切れ目のない運用によって過去は現在に引きあげられ、未来へと手渡しされてきました。ひとつの言葉のなかには、使い手の直接知らない時空と可能性が凝縮されていると言ってもいいでしょう。書き手は、過去を抜き出し、それを取りあえず現在に重ねているにすぎません。

しかし、過去を踏まえ、現在に寄りかかっているはずの言葉が、じつは未来を予見していたのだと、「あとになって」わかってくるのです。この「あとになって」という宿命的な「遅れ」に対して、書き手はいつも無力を感じています。事後にしか明らかにならないことを、事前にどう表現しうるのか。解決しようのないこの問題について、「あとさき」を考えず、自由に語ってみたいと思います。

《略歴》

1964年岐阜県生まれ。早稲田大学第一文学部（フランス文学専修）卒業、東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。その間、フランス政府給費奨学生としてパリ第3大学博士課程留学。東京工業大学講師、明治大学理工学部講師、助教授、教授を経て、2007年より現職。1995年、『郊外へ』で作家デビュー。1999年、『おばらばん』で三島由紀夫賞。2001年、『熊の敷石』で芥川龍之介賞。2003年、『スタンス・ドット』（『雪沼とその周辺』所収）で川端康成文学賞。2004年、『雪沼とその周辺』で谷崎潤一郎賞、木山捷平文学賞。2006年、『河岸忘日抄』で読売文学賞小説賞。この他、著書・訳書多数。2012年より芥川賞選考委員を務める。

Forum@Gifu-u.